



1. 庄内平野から望む鳥海山のはほぼ全景。中央が西鳥海馬蹄形カルデラ(左のピークが釜ヶ岳)。日本海(左)に向けて緩やかな斜面が続く。

鳥海火山

鳥海火山は秋田・山形県境に位置する活火山である。山頂部の溶岩ドームは1801年に形成されており、最近では1974年に噴火している。約50万年の間に、山体の形成と大崩壊を何度か繰り返して成長してきた(本文参照)。(地質調査所地質部 中野 俊)



2.(中)

後カルデラ中央火口丘である鍋森溶岩ドームと鳥ノ海火口(鳥海湖)。左奥は西鳥海馬蹄形カルデラ縁上の月山森で、左斜面は断層崖である。

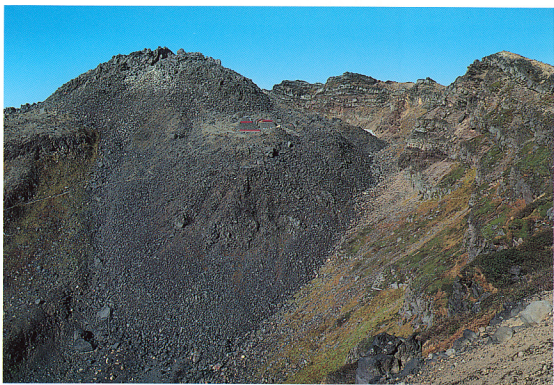
3.(下)

奈曾溪谷の広い谷頭部(鉾立より)。その奥が東鳥海馬蹄形カルデラで、外輪山と中央火口丘が見えている。





4. 東鳥海馬蹄形カルデラ(奥)と岩層なだれ堆積物の流れ山群(手前)、本流から枝別れして由利原高原にも堆積した(仁賀保町上坂)。



5. 新山溶岩ドームとカルデラ壁。溶岩ドームは1801年に形成され、手前に舌状の溶岩流が出ている、その上の建物は大物忌神社の御本殿と宿泊所(1991年秋の台風で倒壊した)。カルデラ壁には溶岩の成層構造が顕著。